

「熱測定講習会」報告

熱測定学会の事業としては最初の試みである上記講習会が、7月8日・9日の両日、東京湯島の全ラ連会館で開催された。かなり以前からの懸案の講習会であり、準備には念を入れたつもりではあっても、どの位の参加者があるのか心配であったが、フタをあけて見ると、予想以上の92名の参加という盛況であり、準備委員一同、ホッと胸をなでおろした。

最初の試みということもあって、プログラムは熱測定・温度測定・熱分析の各分野の基礎と応用、という総花的なものとなったが、その一面、熱測定学会の第一線で活躍しておられる方々を数多く集めた、他の企画ではとうてい真似のできない豪華な講師陣であり、これも数多くの参加者を集め得た一つの理由であったと思われる。参考までにプログラムを次に記しておこう。

プログラム

第1日(7月8日)

- 熱測定総論 (阪大理) 関 集三
- 温度測定的手法と実際 (工技院計量研) 三井 清人
- DTA, DSC (東大宇航研) 三田 達
- TG (早大理工) 大塚 良平
- 熱力学データの収集と利用について

(東大工) 高橋 洋一

- 新しい熱分析法と応用 (工技院電総研) 小沢 丈夫

第2日(7月9日)

- 生化学における熱測定 (阪府大農) 高橋 克忠
- 医薬品における熱測定の応用 (千葉大薬) 仲井 由宣
- 油脂食品への熱分析の応用

((財)日本食品油脂検査協会) 新谷 勲

- 高分子における熱分析 (東大宇航研) 神戸博太郎

- 高温材料の熱測定 (東工大工材研) 佐多 敏之
- 金属における熱測定 (東北大選鉱精錬研) 矢沢 彬

講演は、それぞれ1時間足らずであったため、やや時間不足であり、各講師の方々には御迷惑をおかけしたようであったが、いずれも手際よく話をまとめていただいた。ただ、あまりにテーマが盛り沢山であったため、参加者の方々には、目先が変りすぎて大変だったように思われた。各講演の間に若干の休憩時間を設けたので、参加者の方々から講師に直接に個々の質問をしていただくこともできたようで、全般には、最初にしてはまずまずの講習会ではなかっただろうか、と思う。財政的にも、郵便料値上げなどで苦しい学会の台所に、若干の寄与をすることができたようである。

参加者の方々から、この講習会の印象や、今後の企画についてアンケートを求めたが、その結果も、「まあまあ合格点」ということのものであった。当然のことながら次回以降はもう少しテーマをしぼって、講師の持時間を長くして、もっと突っ込んだ講義を、という意見が多かった。これらの意見を参考に、次回以降の企画をたてていただきたい、と考えている。

おわりに、最初の立案からかなり長期間にわたった準備に、終始御尽力をいただいた準備委員の中西正城・小沢丈夫・市原祥次・山内 繁(前半は影本彰弘)の諸氏に深甚の謝意を表したい。また、事務局の松本直史氏には一方ならぬお世話になった。同氏の経験と行動力なくしては、今後ともこのような企画がみられるとは思われない。記して謝意を表する次第である。

(準備委員長 高橋洋一)